

入場
無料

群馬大学地域貢献事業・群馬県立歴史博物館協力
群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館特別展示

群馬県の古墳発掘の父 尾崎喜左雄博士展

群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る Part 4

尾崎喜左雄博士(群馬大学名誉教授)は、昭和23年から45年と長年にわたり県内の古墳発掘調査に携わり、県内300以上の古墳の調査を行った。国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者である。尾崎博士の長年の研究成果は、現在まで群馬大学教育学部に保管されており、「考古遺物・記録・写真」の3点がそろった調査資料は全国でも類を見ない貴重な資料であると専門家から評価されている。4年目となる今回は、太田・新田地域の古墳に焦点を当てて展示を行う。

2019.11.5(火)⇒12.25(水)
9:00～17:00

総合情報メディアセンター
中央図書館2F学習室

鶴山古墳出土の
石製模造品

本学所蔵

群馬県立歴史博物館寄託

特別公開!

トークイベント 申込不要

トークショー

11/24(日)13:30～15:00

「太田新田における群馬大学の古墳調査」

柿沼 恵介氏(太田市文化財審議委員)

右島 和夫氏(群馬県立歴史博物館長)

尾崎喜左雄博士は、東毛地域においても活発な研究活動を展開している。その代表的なものに鶴山古墳や朝子塚古墳の調査がある。あまり知られる機会のない旧石器～弥生時代遺跡の研究と併せて詳しく跡付けてみたい。(右島 和夫)

展示解説

① 11/24(日)11:00～11:30

② 11/24(日)12:30～13:00

③ 12/14(土)11:00～11:30

④ 12/14(土)12:30～13:00

深澤 敦仁氏(群馬県立歴史博物館学芸係長)

同時
開催

11/23(土)-24(日)

荒牧祭(学園祭)

お問い合わせ



群馬大学総合情報メディアセンター 中央図書館

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

TEL. 027-220-7185 FAX. 027-220-7184

URL. <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>



太田地域における尾崎喜左雄の古墳研究

右島和夫（群馬県立歴史博物館長）

はじめに

尾崎喜左雄氏は、太田地域（平成17年の市町村合併後の新太田市域を指す）の古墳調査を通して活発に古墳・古墳時代研究を行っている。氏が群馬県地域を考古学研究的フィールドにするきっかけとなったのは、よく知られているように、昭和10年に実施された県下一斉の古墳分布調査をとりまとめるために群馬県から請われて昭和11年に着任したことにある。その成果は、昭和13年に群馬県から『上毛古墳総覧』として出版されている。その後、昭和18年には群馬師範学校教授としてむかえられ、戦後は、学制改革によって移行した群馬大学学芸学部（後に教育学部）の教授として昭和45年3月まで勤務した。

尾崎氏が太田地域で最も盛んに現地調査を行っているのは、主として戦後に当たる昭和20年代から30年代にかけてである。氏が最も活発に研究活動を推進した成果が、昭和37年に東京大学から学位授与された大論文『古墳から見た東国文化』であった。それゆえ、昭和20～30年代の時期に一大研究のための基礎的調査が太田地域も含め県内各地で逐次進められていったわけである。

氏の群馬県地域で実施した古墳調査を見てみると、大学での講義等の合間を縫ってのことであったことや、当時の交通事情の制約もあって、その対象は大学に近い前橋・高崎・伊勢崎・渋川地域が中心であった。太田地域は、当時としては大分離れるが、多くの調査の機会を設けた地域の一つである。それは、昭和10年の古墳分布調査成果を取りまとめるのに際して、すべての地域をまわり、大半の古墳を自分の目で見ていたからである。その過程で、太田天神山古墳、女体山古墳、朝子塚古墳、宝泉茶臼山古墳等の古い巨大前方後円墳を具に見て、強い地域印象を受けるところであった。

調査古墳概観

前述した『上毛古墳総覧』を紐解くと、太田地域に属する当時の新田郡の町村（旧笠懸村を除く）、及び山田郡の毛里田・葦川・矢場川・休泊村で確認された古墳の総数は1116基に上る。当地区が、県内屈指の古墳密集地帯であったことがこの数字からもよくわかる。

尾崎氏が、群馬師範学校・群馬大学学芸学部の学生と共に発掘・実測調査した古墳は18基に上る。これらのうち、非常に重要な位置を占めるのが、調査年順に鶴山古墳、朝子塚古墳、宝泉茶臼山古墳である。ただし、これらの古墳に対する基礎的報告を除くとあまり多くを語っている論文等は見られない。その理由として、東京大学に提出した前述の学位請求論文における中心的課題が古墳時代後期から終末期に属する横穴式古墳にあったからである。前述したように博士論文のタイトルは『古墳から見た東国文化』であるが、そのうちの前半部分（基礎研究篇）が大冊の『横穴式古墳の研究』として昭和41年に吉川弘文館から出版されている。その序文には「尚、本書の姉妹篇として、『古墳から見た東国文化』なる書を公刊する予定である。」とあるが、未刊に終わっている。博士論文の後段部分（考察篇）をそのまま出版することもできたわけであるが、氏は、横穴式古墳と同様に竪穴式古墳の研究をまとめ、その上にあらためて「古墳から見た東国文化」をまとめる、という研究構想を持っていたからだと思われる。そのため、当然、氏の調査古墳の中では、竪穴式古墳研究においては間違いなく中核的な位置を占めたと思われるのが鶴山・朝子塚・宝泉茶臼山古墳である。尾崎氏は昭和45年に群馬大学を退官すると、竪穴式古墳の研究に本格的に取り組もうとしていた。氏の調査古墳の中で竪穴式古墳の調査資料の整理を開始していたからである。しかし、これについては、氏の他界のため、実現にいたらなかったわけである。

朝子塚・宝泉茶臼山・鶴山古墳について

朝子塚古墳の調査

昭和31年3月22日から同31日までの10日間にわたって実施された。調査内容は、墳丘測量と墳丘構造及び埴輪列確認のための後円部発掘調査であった。その結果、墳丘長123mの古墳時代前期後半の大型前方後円墳の良好な測量図が得られた。埴輪列追跡の調査では後円部墳頂の埴輪列の配列状況が明らかになった。埴輪列は、縁辺部に沿って円形にめぐると、その内側で長方形に区画（約9×3.5m）する列が確認された。この長方形区画は頂上部の中心から片側に偏しているため、平行してもう一区画存在する可能性が強い。その場合、埴輪列の区画内に竪穴系主体部が存在していることが、同時期の他の事例を参考にすると、十分推測できるところである。確認できていない平行するもう一区画列にも主体部があるものと思われるので、都合2基の竪穴系主体部が存在していることが推測される。

朝子塚古墳は、前期後半の群馬県地域における最重要古墳の一つである。幸い、県指定史跡となっており、古墳は現存している。

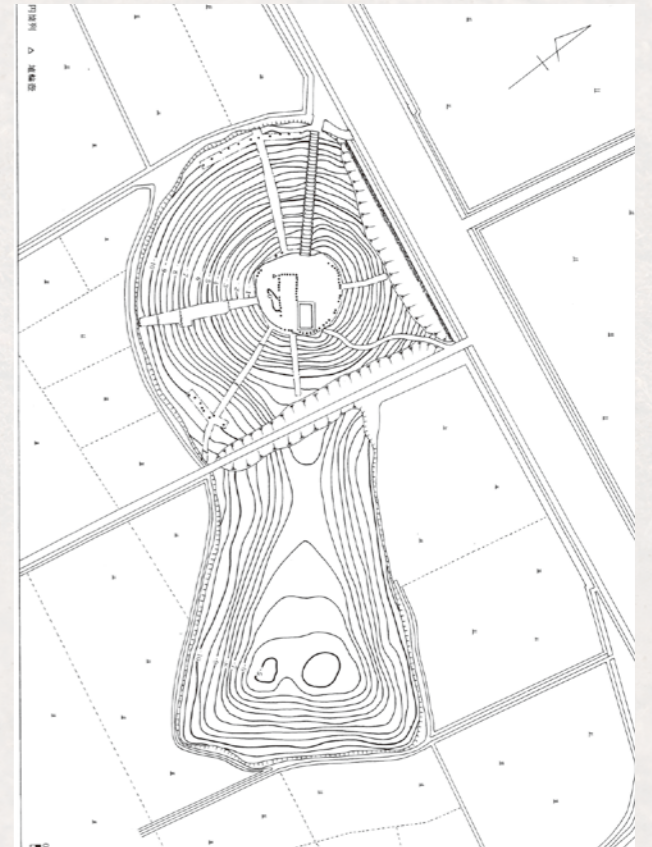


図1 朝子塚古墳 墳丘測量図（1：1,500）

宝泉茶臼山古墳の調査

昭和37年3月21日から同26日までの6日間実施された。調査内容は墳丘測量調査と後円部におけるわずかなトレンチ調査である。測量調査により墳丘長現状で約168mの前期末～中期初頭の巨大前方後円墳の良好な墳丘図が完成した。墳丘図から、良好な周壕があり、おそらく中堤、外壕を伴っていることがわかる。また、併せて行われたトレンチ調査で畿内のものに直結する大型円筒埴輪が出土している。群馬県地域では、5世紀前半の太田天神山古墳が墳丘長210mで最大で、これに次ぐのが高崎市浅間山古墳で約174mを有している。浅間山と茶臼山はほぼ同時期に属しており、西と東の中心地に伯仲する規模の大型前方後円墳が存在していたことがわかる。

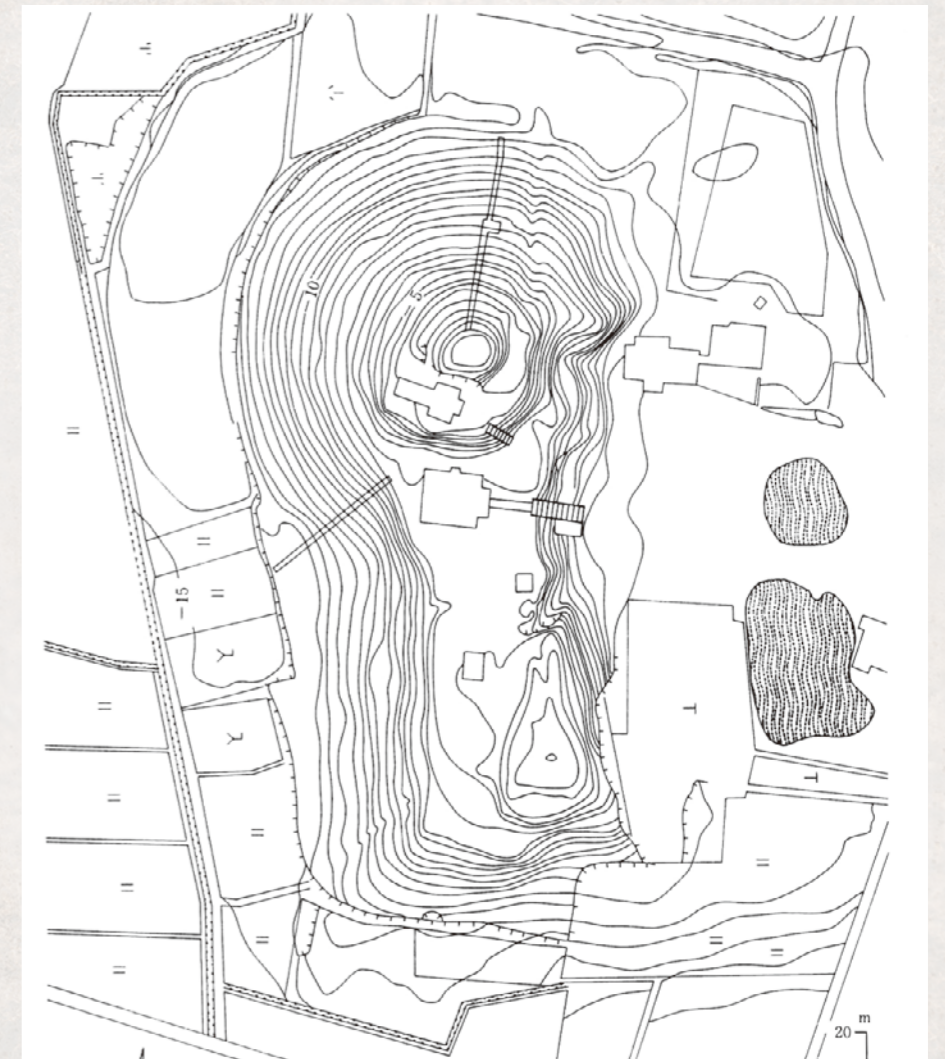


図2 宝泉茶臼山古墳 墳丘測量図（1：1,500）

鶴山古墳の調査

戦後間もない昭和23年12月21日から同29日までの9日間実施された。この時は、まだ群馬師範学校時代で、そこでの尾崎教授が学生と共に実施したものであった。この調査では、師範学校卒業生で地元で教職に就いていた木暮仁一氏が、地権者との交渉、宿舍の確保等に骨をおったことが伝えられている。木暮氏が後年に書き残した『毛公羅（もぐら）乃座礼言』の「鶴山古墳」の項には、戦後間もない食糧難の時代の苦労話や調査の様子が綴られていて興味深い。

内容は、墳丘測量図の作成と墳丘の一部トレンチ調査と後円部墳頂の竪穴式石室の調査であった。その中で重点は、副葬品の遺存状態が極めてよい竪穴式石室調査に置かれた。

鶴山古墳は5世紀第2四半期に属する前方後円墳で、石室内から短甲3（横柄板鉾留式2、長方板革綴式1）、冑2（小札鉾留衝角付式1、小札鉾留眉庇付式1）、肩甲2、頸甲2などの甲冑類、鉄製大刀・剣（金銅製三輪玉付が1）、鉄鎌・鉾・石突、革製盾（付属具として隅金具、日月貝）、石製模造品（刀子・鎌・斧・手斧）多数、ミニチュア鉄製農工具（斧・鎌・鉾・針状・刀子・鑿・錐等）があり、また木棺組み立てのための鉄製錠がある。

これらは、典型的な中期古墳の副葬品セットであり、極めて重要な資料として一部の研究者に知られるところであった。しかも、長い間、未整理であったので、公開される機会もなかった。これらの多くは金属製品、木製品等で腐朽滅失のおそれがあったため、今から30年近く前、群馬大学と群馬県立歴史博物館が協議して、博物館に寄託された。そして、本資料にとっては、発見後はじめての基礎的整理を、当時博物館で担当をしていた石川正之助氏が計画し、その実際を右島が行うこととなった。以来、10年近くの歳月をかけて、基礎調査を実施し、はじめて鶴山古墳の遺物群を内外に披瀝するところとなった。



図3 発掘当時（昭和23年）の鶴山古墳



図4 鶴山古墳 甲冑出土状態

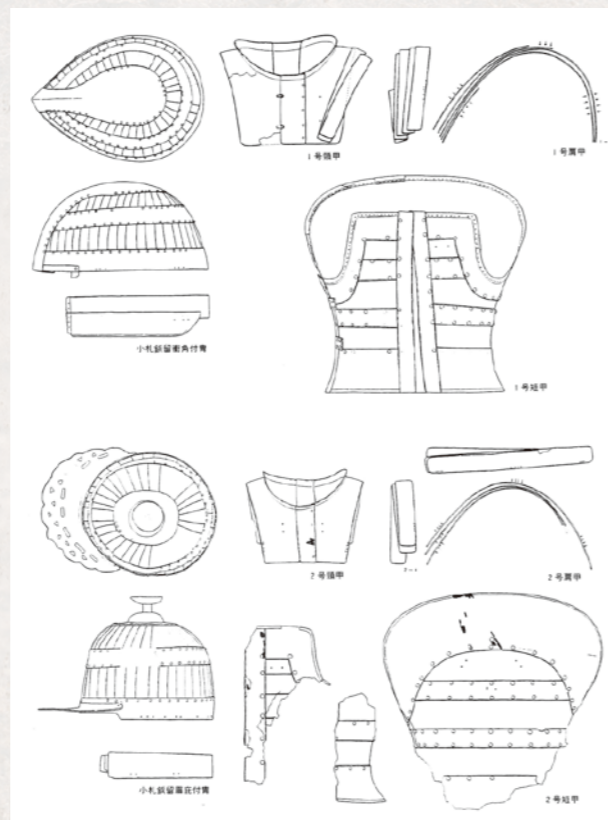


図5 鶴山古墳 甲冑類実測図

尾崎喜左雄博士の弥生研究

柿沼恵介（太田市文化財審議委員）

I はじめに

昭和18年に任官した尾崎博士は、考古学や郷土史に対する思いが強く、その当初から弥生遺跡にも眼を向けていた。以下、尾崎研究室の、日本の基層文化を形成した古墳時代前史としての弥生研究の跡を辿ってみる。

II 尾崎研究室の主な弥生遺跡調査例（筆者の参加した調査）

1.水沼遺跡（高崎市） 尾崎研究室初の弥生遺跡調査である。烏川右岸の河岸段丘上にあり、昭和19年から断続的に6次の調査を行い、10軒以上の住居を確認した。主に県内西・北部に展開する弥生後期の樽式土器期後半以降の集落で焼失住居が多い。県内初の樽式期住居の完掘例であり、標式的遺跡となる。第4次・昭和23年の調査では、博士が現地直接指導を行い、土器1片も残さず測量して記録する等先進的な調査を進めた。また、現地講演会を行い周知にも努めた。火山灰・軽石に注目したのもこの頃と考えられ、後の学際的な研究へと繋がっていく。尚、遺構については、同年の日本考古学協会第2回総会において博士が発表している。筆者は、第5次の昭和42年、第6次の昭和43年の調査に参加した。

2.荒砥前原遺跡（前橋市） 荒砥川左岸の河岸段丘上にある。昭和32年鶏舎拡張時に多くの中期後半の土器が出土し、出土地点を中心に調査した。筆者が参加した昭和44年の調査では、台形状を呈する住居を完掘した。主に県内西・北部に分布する竜見町式土器の他に在地要素の強い土器や南東北系の土器が混じっている。

3.乗附遺跡（高崎市） 碓氷川右岸にあり、御部入古墳群と重複する。宅地造成工事に伴い昭和42～43年に調査した。後期後半～末の樽式土器を出土する住居を14軒以上確認した。焼失住居が多い。

4.倉淵東小校庭遺跡（高崎市） 水沼遺跡の対岸、烏川左岸の河岸段丘上にある。昭和43年プール新設に伴い調査し、後期末～古墳時代初頭の樽式土器を出土する焼失した住居を検出した。

5.浜尻A地点遺跡（高崎市） 井野川右岸にある。昭和43年電柱の移転作業による土器発見の報を受けた調査で、中期末の竜見町式土器を出土するV字溝や土壇を検出した。

前述の他に、中期後半では高崎市巾遺跡や中之条町有笠山岩陰遺跡、後期後半では高崎市剣崎遺跡や同井野天神遺跡、婦恋村とつくり穴洞窟遺跡、前橋市桜ヶ丘遺跡等の調査がある。

III 充実した収蔵庫

当時研究室は日吉町にあり、その北側の収蔵庫には発掘や採集・偶然の発見による寄贈等、埴輪・土器・石器類が所狭しと収められていた。それは県内各地にいる門下生の活躍の一端を示すものでもあった。弥生時代の主な収蔵遺物を挙げると、中期前半では前橋市大胡金丸遺跡や高崎市水沼岩水遺跡、中期後半ではみなかみ町八束脛洞窟遺跡や高崎市林製作所遺跡、後期後半では高崎市井野川遺跡の土器等がある。

IV 今に生きる尾崎博士の教え

尾崎博士は、郷土史の大切さや一片の土器の重み等をいつも語っていたが、それらとは別に、筆者が今も強心に留めているのは、「歴史的事実は、常に歴史的真実か」そして、「箱の話」である。それから、尾崎研究室の誇りは、門下生の紐帯の強さである。それは、「来る者は拒まず、去る者は追わず」と言いながら、足遠くなった門下生の動向を常に懸念する博士の後姿を見ていたことから生じたのであろう。



図6 有笠山岩陰遺跡発掘中の尾崎博士



図7 昭和23年 鶴山古墳(太田市鳥山上町)



図11 昭和25年 中原古墳(太田市高林南町)



図13 昭和31年 朝子塚古墳(太田市牛沢町)



図15 昭和37年 宝泉茶白山古墳(太田市別所町)

記録写真で振り返る 太田新田地域の古墳発掘

太田新田地域での尾崎博士の研究室による発掘調査は、昭和23～41年の間に行われました。

昭和23年 12月、鳥之郷地区・鶴山古墳の発掘が実施されました。墳丘長約102mの前方後円墳であることとともに、未盗掘の竪穴式石室からは甲冑をはじめとする大量の副葬品が出土しました(図7)。

昭和24年 1月、強戸地区・大鷲古墳群の中の1基である大鷲A号古墳の発掘が実施されました。なお、同月には北金井御嶽山古墳群や鶴生田下強戸古墳群の測量も行われました。7月、藪塚地区・北山古墳と西山古墳の発掘が実施されました。うち、西山古墳では、墳丘長約34mの前方後円墳であることと横穴式石室の様相が明らかにされました(図8・9)。

昭和25年 1月、強戸地区・成塚古墳群の円墳、成塚A～D号古墳の4基の発掘が実施されました(図10はB号古墳)。7月、沢野地区・高林古墳群のうち、小谷場1・2号古墳、向山古墳、中原古墳の4基の発掘が実施されました。うち、中原古墳では、墳丘長約56mの帆立貝形古墳であることや埋蔵施設に礫櫛が採用されたことが判明しました(図11)。

昭和26年 7月、藪塚地区・街道橋古墳の発掘が実施されました。8月、強戸地区・大鷲古墳群の大鷲B号古墳と御守山古墳の発掘が実施されました。ともに直径約15mの円墳であることと横穴式石室の様相が明らかにされました(図12は御守山古墳)。

昭和28年 4月、強戸地区・成塚古墳群の岩穴古墳の発掘が実施されました。

昭和31年 3月、沢野地区・朝子塚古墳の発掘が実施されました(図13)。墳丘長約123mの前方後円墳の平面形状が明らかにされるとともに、後円部から埴輪列が検出されました。

昭和37年 3月、宝泉地区・宝泉茶白山古墳の発掘が実施されました。墳丘長約168mの前方後円墳の平面形状が明らかにされるとともに、墳丘中段の埴輪列の様相が明らかになりました(図15・16)。

昭和41年 5～6月、強戸地区・業平塚古墳(=成塚C号古墳)の第2次発掘が実施されました。古墳は失われてしまいましたが、墳丘と石室の構造を明らかにする貴重な発掘調査データが記録されました(図14・17)。(深澤敦仁)



図8 昭和24年 西山古墳(太田市藪塚町)



図9 昭和24年 西山古墳(太田市藪塚町)



図10 昭和25年 成塚B号古墳(太田市成塚町)



図12 昭和26年 御守山古墳(太田市北金井町)



図14 昭和41年 業平塚古墳(太田市成塚町)



図16 昭和37年 宝泉茶白山古墳(太田市別所町)



図17 昭和41年 業平塚古墳(太田市成塚町)

太田新田地域での主な古墳の発掘調査

調査年	古墳名	古墳所在地（現住所）	「上毛古墳総覧」での記載名	調査内容
昭和 23 年	鶴山古墳	太田市鳥山上町	新田郡鳥之郷村 3 号古墳	発掘
昭和 24 年	殿山古墳	太田市北金井町	新田郡強戸村 64 号古墳	実査
	大鷲 A 号古墳	太田市北金井町	新田郡強戸村 100 号古墳	発掘
	ケラ塚古墳	太田市強戸町	新田郡強戸村 137 号古墳	実査
	北山古墳	太田市藪塚町	新田郡藪塚本町 35 号古墳	実測
	西山古墳	太田市藪塚町	新田郡藪塚本町 66 号古墳	実測
昭和 25 年	業平塚古墳（成塚 C 号古墳）	太田市成塚町	新田郡強戸村 157 号古墳	発掘
	成塚 B 号古墳	太田市成塚町	新田郡強戸村 158 号古墳	発掘
	成塚 D 号古墳	太田市成塚町	新田郡強戸村 160 号古墳	発掘
	成塚 A 号古墳	太田市成塚町	新田郡強戸村 161 号古墳	発掘
	向山古墳	太田市牛沢町	新田郡沢野村 39 号古墳	発掘
	中原古墳	太田市高林南町	新田郡沢野村 72 号古墳	発掘
	小谷場 1 号古墳	太田市牛沢町	総覧漏れ	発掘
	小谷場 2 号古墳	太田市牛沢町	総覧漏れ	発掘
昭和 26 年	街道橋古墳	太田市藪塚町	新田郡藪塚本町 83 号古墳	発掘
	大鷲 B 号古墳	太田市北金井町	新田郡強戸村 101 号古墳	実測
	御守山古墳	太田市北金井町	新田郡強戸村 112 号古墳	発掘
昭和 28 年	岩穴古墳	太田市成塚町	新田郡強戸村 150 号古墳	発掘
昭和 31 年	朝子塚古墳	太田市牛沢町	新田郡沢野村 46 号古墳	発掘
昭和 37 年	宝泉茶臼山古墳	太田市別所町	新田郡宝泉村 5 号古墳	発掘
昭和 41 年	業平塚古墳（成塚 C 号古墳）	太田市成塚町	新田郡強戸村 157 号古墳	発掘

ご挨拶

総合情報メディアセンター特別展示「尾崎喜左雄博士展 Part4」にお越しいただき、ありがとうございます。尾崎先生は、昭和 24 年に群馬大学教授に就任され、国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者です。本学が所蔵する尾崎博士の「考古遺物・記録・写真」の 3 点が揃った調査資料は、全国でも類を見ない貴重な資料と評価されています。そうした資料と研究成果を、2016 年から特別展示「尾崎喜左雄博士展」を開催して紹介してきました。2016 年は、尾崎先生の古墳調査の歴史を昭和 20～40 年代ごとに紹介し、2017 年は渋川地域、2018 年は佐波伊勢崎地域に焦点を当てた展示を行いました。

また本展は、群馬大学地域貢献事業として、群馬県立歴史博物館の全面協力のもと開催しています。トークイベント、解説など多くの方々のご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

太田新田地域の古墳調査について、ゆっくりとご鑑賞ください。

総合情報メディアセンター長 田中 麻里

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館特別展示
群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展 Part4
 ～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～

令和元(2019)年11月5日 発行

発行 群馬大学総合情報メディアセンター

編集協力 群馬県立歴史博物館

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

電話.027-220-7185

URL.https://www.media.gunma-u.ac.jp/

